

展覧会情報

「くらしと測量・地図」展

会場 新宿駅西口広場イベントコーナー

期間 6月5日～7日

特別展「ツイン・タイム・トラベル イザベラ・バードの 旅の世界 写真展」

会場 駒場博物館

電話 03-5454-6139

期間 ～6月30日

地図絵図展

会場 小諸高原美術館

電話 0267-26-2070

期間 6月21日～7月21日

当財団も地図を出展しています。



会場 日本科学未来館

期間 11月14日～16日

巡検・セミナー開催のご案内

平成25年度1回目の巡検・セミナーはカルトグラフィックアナリスト・地図之研究室 辻野民雄氏のご講演「日本の民間地図の変遷（仮称）」を初秋に予

定しております。実際に地図を作成していた経験に基づく貴重なセミナーです。会場は未定ですが池袋周辺を予定。現在、辻野氏とテキストなどの調整を行っておりますのでご期待下さい。詳細は8月発行予定の次号ICICニュースをご覧ください。

mini地図NEWS

地図地理検定開催

地図地理検定が6月23日、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の7都市で実施される。検定は基礎的な「一般」とさらに高度な「専門」の2クラスあり、地図

に関する知識・レベルが判定できる。検定料は一般が3,000円、専門が4,000円で学生・リピーター割引がある。同検定は、日本地図センターと国土地理協会の主催。地図と地理の知識を豊かにし、地図を楽しく読み・使う力を養うために2004年から行われ、今回で19回目になる。参加者は小学生から80代と、幅広い年齢層になっている。(リセマム)



マンハッタンの地図

左の2枚の地図は、ロンドンに拠点を置くデザインファームBERGが2009年に作成したニューヨークの地図「Here & There: Horizonless Projections of Manhattan」。ニューヨーク近代美術館の永久コレクション(MOMA's permanent collection)となっている。左側がdowntown、右側がuptown側だ。サイズは縦3フィート、横2フィート(約90cm×60cm)。原宿のMOMAショップで購入できるかは不明(ネットショップアイテムには入っていないようだ)。

地図絡み

第53回 京都周辺の路線変更

帝京大学理事 井口悦男

日本の鉄道技師が、最初に手がけた路線は、京都～浜大津間、逢坂山トンネル建設を含め、明治12、13年のことであった。あたかも中国「^{ベイジン}北京～^{バオトウ}包頭」建設に、はじめて中国人技師が、北京の北郊万里長城で知られた八達嶺越え路線に挑戦したのに通じる。

東海道線の旧線区間は、現在、京都～稲荷の少々先まで、JR奈良線区間として、またこの先、東山の谷間越え、山科盆地南縁部分は、永らく放置されていたが、敗戦後名神高速道の一部に転用された。八達嶺の路線は支線化され、北京西南方豊台から門頭溝支線を延長して、緩勾配線に変えられている。

日本の鉄道の記念すべき区間の改良工事は、従来山科盆地南側を通る迂回線に対し、東西方向一直線化し、盆地北側を經由し、山科駅も南から北へ変更された。それと共に東山にトンネルが掘られ、賀茂川は直角に渡る形で京都駅に入った1)。こうして、東海道線の京都～馬場（現、膳所）間ショートカットされた（大正10年）が、東山トンネルの片勾配（山科盆地が京都盆地より高い）は、上り長大列車に補助機関車を蒸気機関車時代必要とし、この間乗務員も乗客も、力行にとまう石炭の煙に悩まされる有名な場所となった。

この新線建設に関連し、奈良線（旧、奈良鉄道）を、京都～稲荷先区間旧東海道線に移動、従来の桃山駅との間に連絡線を新設することとした。そのため、稲荷駅がローカル線の一駅としては、規模の大きいままとなり、転用を知らない人たちには、伏見稲荷の御威光で立派にしたと感じた。当然、単線化されて久しかったが、近頃の電化以後、複線化部分復活した。

大規模変更で次は2)の京都市内線である。明治28年開業の日本最初の電車線、伏見線は狭軌の京都電気鉄

道（通称、京電線）で、一方、標準軌の市営電気軌道は明治45年開業。大正7年市営に統一されたが、最終的に北野線1線を京電線の名残として、N電そして木造電車のみでの運行にするまで、路線の統廃合、改軌が重ねられ、各地に見られた3線区間が、1ヶ所まで縮小された。

以下規模、比べて小さくなるが、3)京阪電気鉄道の五條以北三條までの市内乗入れには、賀茂川と平行する疏水との間の、市営免許線を転用した。現在地下線で、七條以北出町柳まで延伸し、叡山、鞍馬両線に接続する。

4)昭和3年。旧奈良鉄道路線で国鉄奈良線を、伏見先まで利用し、京都駅南側から大軌の西大寺まで奈良電気鉄道開業（現、近鉄京都線）

5)京阪電鉄京津線（旧、京津電鉄）は、現在市営東西線に乗入れし、三條通り地下を京福嵐山線に接続するが、昭和6年～平成9年まで路上で、それ以前は古川町～蹴上間旧道上であった。

6)敗戦直前、昭和19年12月不要不急路線として廃止の愛宕山鉄道。ケーブルと共に復活しなかったが、叡山と並ぶ信仰の山への路線。僅か3km少しの平坦線に古い車両がいた。

(13.3.15)

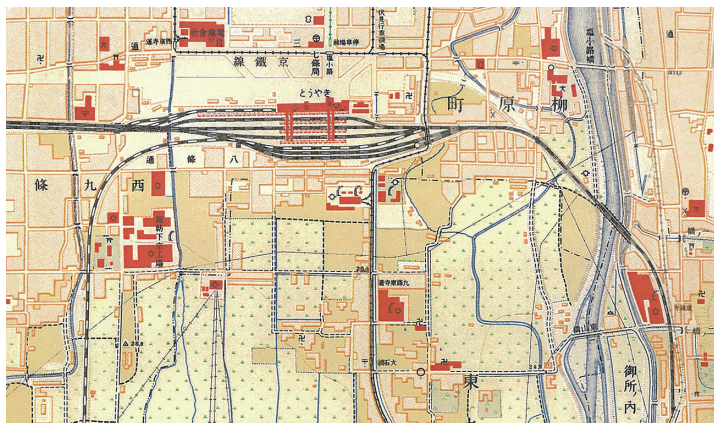


図1 大正4年 京都近傍図（東南部）1万、陸測 京阪間の各路線の形が、西は別として、東海道線は、現JR奈良線の方向。奈良線は、現近鉄線方向へと、いずれも曲って南下している。（約49%に縮小）

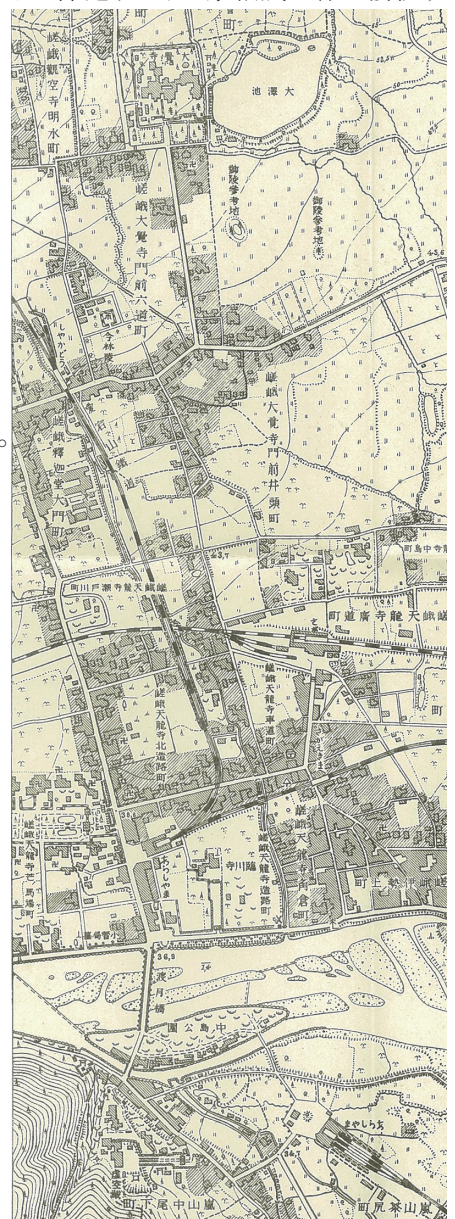


図2 昭和13年測 京都近傍「嵯峨」1万、陸測 京福嵐山駅から同方向に別線が見える。釋迦堂に小車庫があったことも。昭和4年から15年間、つかの間レールがあった。（約70%に縮小）